



学校だより「あ・は・も」

～「あいさつ・はっぴょう・もくひょう」が自慢の塩川小学校～



平成31年2月21日(木)発行 No.41 文責 塩川小学校長 佐藤 寅記

「あ・は・も」の「あいさつ」を考える！その2

交差点の信号が赤に変わり、前を走っている一台の白い車が停車しました。私は、その後ろに停車しました。

すると、副班長を先頭に、いそいそと横断歩道を渡りはじめる登校班の姿が目に入ってきました。横断旗を掲げていた班長が、最後に渡る子の後ろに付くと、白い車の運転手に一礼し、渡り終えたあとにも振り向いて、また、ぺこりと頭を下げました。

白い車の運転手は、信号が赤になったから止まったのです。しかし、班長のAさんは、「わたしたちのために止まってくれた。」と捉えて、お礼をしたのです。その時、Aさんは、心の中で「ありがとうございます。」と感謝の気持ちを伝えていたように思います。

前号で、あいさつについて発表した3名をご紹介しました。1年生のMさんは、「感謝の気持ち込めてあいさつすること」について発表しました。6年生のHさんは、「あいさつしたい気持ちになった。」ので、あいさつしたと話していました。

あいさつは、相手に『心を開く』行為であり、『気持ちを伝える』行為です。子ども達は、あいさつの意味をこのように考えるようになっていきます。この意味を内在化できたとき、子ども達は進んであいさつする子に高まっていきます。



「感謝の気持ち」を込めてあいさつする、と発表した1年生。

考える力の高まり ～おめでとうございます～

今年度は、作文や感想文などでの表彰が増えています。

作文、感想画、硬筆・習字など、様々な分野で表彰されました。どの分野においも、作品に仕上げるまでには、たくさん考え、考えたことを形にしていきます。考える力が必要です。本校では、「はっぴょう」を通して、「思考力・判断力・表現力」を育み高めています。その一つの成果として、たいへんうれしく思います。

○ 第30回読書感想画福島県コンクール

優良賞 5年 村田真宝 6年 二瓶 玲

○ 第63回福島県書きぞめ展

書きぞめ奨励賞 1年 遠藤絆那 3年 山口美空
奨励学校賞 塩川小学校

○ 平成30年度喜多方市農業科作文コンクール

大賞 6年 平宮蒼唯
優秀賞 4年 古川 栞
農業科賞 4年 塚原千穂 3年 山口詩乃



農業科作文コンクール表彰式では、大賞受賞者の5名が作文の朗読を行いました。

中でも蒼唯さんの朗読は、明瞭で聞きやすく、とても堂々としていました。内容はもちろん、発表態度も「大賞」でした。

算数・数学ジュニアオリンピック銀メダルと優秀教職員



県内で、5年生唯一の銀メダル獲得者となった山口優颯くんと、県教育委員会表彰「優秀教職員」となった五ノ井教諭が、遠藤市長と大場教育長に受賞報告をしてきました。

遠藤市長の質問に、山口くんは、数学者になる夢と、次回の金メダル獲得の意気込みを伝えていました。